

大雪に伴う被害防止対策について

気象災害対策H26-6
平成26年12月9日
農林総合研究センター

I 気象状況

平成26年12月8日に新潟地方気象台から「低温と大雪に関する異常天候早期警戒情報（北陸地方）」が発表されました。

（見出し）

今回の検討対象期間（12月13日から12月22日まで）において、北陸地方では、12月13日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上、降雪量が平年よりかなり多くなる確率が30%以上と見込まれます。

農業施設の管理に注意するとともに、除雪などの対応に留意してください。また、今後の気象情報に注意してください。

なお、北陸地方では、昨日までの1週間、気温の低い状態が続き、降雪量が多くなっています。今後も1週目から2週目にかけて気温の低い状態が続き、降雪量も多くなる見込みです。

II 被害防止対策

〈要旨〉

[野菜]

- (1) ハウスは、筋交い、中柱等で補強する。その際、ハウスが降雪後にねじれないように補強は左右対称とする。
- (2) 急激な降雪により積雪が1mを超える緊急時には、ビニールを切ってハウスの倒壊を防止する。特に連棟ハウスは倒壊の危険が大きいため早めに行う。
- (3) 強風の場合にはハウスの密閉を徹底し、ハウス内への吹き込みを防止する。

[果樹]

- (1) 樹体や果樹棚を支柱等で補強する。特に、粗せん定が終了していない園や主枝や亜主枝が長大化している園では、雪の重みによる枝裂けや棚の倒壊が起きやすいので対策を徹底する。
- (2) 冠雪が50cmを越えると被害が出やすいので、降雪量を見ながら着雪の払い落としを行う。

[畜産]

- (1) 畜舎等の施設点検を行い、老朽化等により倒壊の恐れがある場合は必要に応じて補強等を行うとともに、安全対策をしっかりとって屋根の雪下ろしを適切に実施する。
- (2) 降雪による交通の遮断等非常事態に備えて、飼料の在庫確認と購入手当を早めに行い、給与する飼料が急変しないよう留意する。
- (3) 子牛・子豚は、寒さに弱く気温が下がると発育が阻害されるので、防寒ジャケット・保温ランプなどで防寒対策を講じる。
- (4) 停電によって搾乳ラインやバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

〈詳細〉

1 野菜・花き

栽培中の軟弱野菜や花き等のビニールハウスを中心に倒壊等の被害発生が懸念される。

(1) 降雪前の対策

野菜・花き等のビニールハウス

- ・ハウスは、筋交い、中柱等で補強する。その際、ハウスが降雪後にねじれないように補強は左右対称とする。
- ・ハウスの隣棟間隔が狭いとき（間口の1/2以下）は、1棟おきにビニールフィルムをはずし、雪の堆積場とする。
- ・連棟ハウス（特に雨ドイ付き）は倒壊の危険が大きいので、支柱等の補強を徹底する。
- ・側壁に堆積した雪を融雪するため、側壁散水パイプを設置する。散水施設を設置できない場合は、本ぽに使う灌水チューブを堆積した雪の上にセットできるように準備する。
- ・生育中の作物を保温するため、二重トンネルや不織布等による被覆を行う場合は適宜換気を実施し、過湿にしない。
- ・強風の場合にはハウスの密閉を徹底し、ハウス内への吹き込みを防止する。



ハウス間の除雪



ハウスビニール切断

(2) 降雪中・後の対策

施設の野菜・花き

- ・ハウス内温度を4℃以上にすると、ほとんどの屋根雪は滑落する。滑落しない場合は手作業で強制的に滑落させ、天井に雪を乗せたままにしない。
- ・急激な降雪により積雪が1mを超える緊急時には、ビニールを切ってハウスの倒壊を防止する。特に連棟ハウスは倒壊の危険が大きいので早めに行う。

- ・ビニールを切るためハウスに入る場合は、下敷きにならないように細心の注意を払って作業を行う。また、ビニール切断作業は左右対称に行っていく。
- ・ハウスの側壁に積もった雪は早期に除雪するか、散水融雪する。
なお、水温が低い水で融雪する場合は降雪初期から実施する。
- ・ビニールを外したハウスでもパイプ部分に大量の雪が積もると倒壊の恐れがあるので、雪を落とすようにする。

2 果樹

積雪による被害としては、枝折れや枝裂け等の樹体被害と、果樹棚やパイプハウス等の施設倒壊が考えられる。特に、せん定が終わっていない果樹園では被害が発生しやすいので、被害防止対策を徹底する。

また、間接的な被害として、野ネズミや野ウサギの食害も問題となるので、防止対策を徹底する。

(1) 降雪前の対策

- ・樹体や果樹棚を支柱等で補強する。特に、粗せん定が終了していない園や主枝や亜主枝が長大化している園では、雪の重みによる枝裂けや棚の倒壊が起きやすいので対策を徹底する。
- ・融雪時の湿害を防止するため園内の排水対策を徹底しておく。

(2) 降雪中・後の対策

- ・冠雪が50cmを越えると被害が出やすいので、降雪量を見ながら着雪の払い落としを行う。
- ・枝が雪に埋没すると雪解け時に枝裂けを起こすので、積雪初期には枝下の雪を踏み込んで埋没を防止する。埋没した場合は速やかに枝を掘り出す。
- ・激しい降雪により果樹棚が完全に埋没して倒壊の恐れがある場合は、棚の幹線や小張り線を切断して枝を雪面上に引き上げ倒壊を防ぐ。
- ・ぶどうの雨どい付きハウスは積雪による倒壊被害を受けやすいので、とい部分の除雪や支柱によって補強を行う。

(3) 野ネズミ・野ウサギ対策

- ・野ネズミは、忌避剤やわら巻き等防御対策を地域全体で行う。
- ・野ウサギは、防兎ネットで園全体を囲ったり、餌となるせん定枝を園の外周に積み、園内での食害を少なくする。

3 畜産

積雪による被害としては、畜舎の倒壊・破損、降雪による停電・断水や交通の遮断による飼料の入手困難等家畜のライフラインへの影響が考えられる。また、寒さによる発育不良も想定されるので、保温対策を徹底する。

- ・畜舎等の施設点検を行い、老朽化等により倒壊の恐れがある場合は必要に応じて補強等を行うとともに、安全対策をしっかりとって屋根の雪下ろしを適切に実施する。
- ・降雪による交通の遮断等非常事態に備えて、飼料の在庫確認と購入手当を早めに行

- い、粗飼料なども含めて給与する飼料が急変しないよう留意する。
- ・子牛・子豚は、寒さに弱く気温が下がると発育が阻害されるので、防寒ジャケット・保温ランプなどで防寒対策をする。
 - ・停電によって搾乳ラインやバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

北陸地方

低温と大雪に関する異常天候早期警戒情報（北陸地方）

平成26年12月8日14時30分

新潟地方气象台 発表

要早期警戒（気温）

警戒期間 12月13日頃からの約1週間

対象地域 北陸地方

警戒事項 **かなりの低温（7日平均地域平年差-2.7℃以下）**

確率 30%以上

要早期警戒（降雪量）

警戒期間 12月13日頃からの約1週間

対象地域 北陸地方

警戒事項 **大雪（7日合計地域平年比307%以上）**

確率 30%以上

今回の検討対象期間（12月13日から12月22日まで）において、北陸地方では、12月13日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上、降雪量が平年よりかなり多くなる確率が30%以上と見込まれます。

農業施設の管理に注意するとともに、除雪などの対応に留意してください。また、今後の気象情報に注意してください。

なお、北陸地方では、昨日までの1週間、気温の低い状態が続き、降雪量が多くなっています。今後も1週目から2週目にかけて気温の低い状態が続き、降雪量も多くなる見込みです。

<参考>

降雪に関する情報は北陸地方で平均した7日間降雪量を対象としています。

参考として、この期間の主な地点の7日間降雪量の平年値を以下のとおり掲載します。

地点	平年値
新潟	8センチ
高田	23センチ
富山	15センチ
金沢	10センチ
福井	11センチ